



▲第7回コンペ公開審査会の様子▼



▲第7回コンペ最優秀企画「SHIBAURA CAMP!〜自由にえがく・自由をつくる」の様子▼



第8回



子どもたちのまち・いえ ワークショップ提案コンペ

次世代を担う子どもたちが建築を学ぶことは、興味の世界を広げ、ときにその後の生き方に影響を与え、ひいては社会を変えていく力があると、わたしたちは考えています。しかし、子どもたちが建築を学ぶ機会は残念ながら日本ではあまり多くありません。建築を学ぶことは子どもたちにはまだ早いのでしょうか。もっと別の学び方があるのではないか。わかりやすく楽しみながら建築を「体験」してもらおうことができるのではないか。そのような思いをもって、わたしたちは1991年から建築をテーマにした子ども向けのワークショップを開催してきました。

さらに、学生の方々の瑞々しい感性から生まれる企画を期待し、2011年より学生を対象とした「子どもたちのまち・いえワークショップ提案コンペ」を開催し、学生による斬新な企画を実現してきました。第8回となる本年も、ワークショップ提案コンペを実施いたします。子どもたちが従来のワークショップでは体験できなかったような方法で建築に出会い、建築のおもしろさを共有し、未来をつくる力を育むことを期待しています。そしてこれは、学生の方々にとっても、新しい発見があり、現在学んでいることを見直す良い機会になるでしょう。

本コンペの最優秀賞企画は、「親と子の都市と建築講座」というワークショップとして実現します。企画運営の主体は、選ばれた学生の方々です。そのため、企画の実現可能性や自分たちで実施するという意欲が求められますが、ワークショップの経験は問われません。未経験者からの応募も歓迎します。ぜひたくさんのご応募をお待ちしています。



会場：建築会館ホール

登録締切
5/18

応募締切
6/5

公開審査会
6/9

主催：日本建築学会

第8回子どものまち・いえワークショップ提案コンペ 募集要項

【応募要項】

《応募対象》

- ① 5名以上からなる学生団体。(大学院・大学・専門学校等、ワークショップ経験有無は不問)
 - ② 代表者を1名選出し、事務局と連絡がやり取りできる状況であること。
- 《応募方法》(参照:最下段HPに応募要項、応募票、WS概要票を掲載)

■step 1: 事前登録(応募票の提出)

- ① 団体メンバー情報(代表者氏名・所属・連絡先住所・電話番号・メールアドレス、団体メンバー全員の氏名・所属)と6月9日(土)公開審査会後に行われる【懇親会】(右面参照)への出欠を『応募票』に記入したうえで、『応募票』を5月18日(金)17時までにメールで提出すること。

■step 2: 企画応募(プレゼンシート、WS概要票の提出)

- ② テーマを掲げて「子どものまち・いえワークショップ」を企画し、A3判1枚(縦使い横使いは自由)にプレゼンシートとしてまとめて、6月5日(火)17時までに提出すること。

※下記④の内容はプレゼンシートに記載しないこと。

- ③ プレゼンシートには、企画タイトル・概要など、ワークショップを実施するために必要な情報を明記すること。

- ④ 実施予定日時・実施場所(企画条件参照)・参加者予想規模・当日スケジュール・スタッフ配置・準備物・準備スケジュール・予算を『WS概要票』に記入したうえで、別添すること。

※『WS概要票』については、コンペ当日にプレゼンシートとともに掲示。

※ワークショップ実施にあたっては実行委員会を設立し、最優秀賞プログラムを軸に実行委員会が準備・運営を行うので、スタッフ配置については団体人数を越えて想定しても良いものとする。

※参加者募集(広報)については、子ども教育支援建築会議子ども教育事業部会が担うが、企画団体でも参加者募集を行ってください。

《企画条件》

- ① テーマは特に絞らないが、『まち・いえ』(住環境)に関わる企画とする。
- ② すでに主催者・団体が決定している企画については、主催者・団体名を記載すること。
- ③ 過去に実施された企画を応募する場合は、開催実績を記載すること。
- ④ 企画実施日については、2018年秋頃の土曜・日曜・祝日のいずれかの日程で行うこととする。※実施日は、審査会後に調整を行う。
- ⑤ 想定実施場所としては、東京近郊とする。

なお、子ども教育事業部会では、次の2箇所のいずれかを実施場所として希望する場合、実施フィールドの確保を支援する。

※ I) 晴海トリトンスクエアおよびその界限、II) 建築会館イベント広場

- ⑥ 実際に行うことが決定したプログラムに対しては、本会より上限10万円をワークショップ実施費用として用意する。

※予算にはスタッフの交通費や道具の郵送代等も含む。

※場合によっては、複数の企画に予算を分配し、採択する可能性がある。

- ⑦ 実行委員会には子ども教育支援建築会議子ども教育事業部会委員も参画し、実施に向けてサポート・アドバイスを行う。また、実施プログラムの著作権については、応募団体と子ども教育支援建築会議子ども教育事業部会に帰属するものとする。

※最優秀賞作品およびコンペに応募された全作品について、部会HPに掲載し、公開する場合がありますので、ご了承ください。

《応募締切》

■step 1: 5月18日(金)(メールで17時必着)

■step 2: 6月5日(火)(郵送または持ち込みで17時必着)

《結果発表》

2018年6月9日(土)に「第8回子どものまち・いえワークショップ提案コンペ」を実施します。公開審査会において、最優秀賞を決定します。

※公開審査会当日の詳細については、後日応募代表者にご案内します。

《応募先》

日本建築学会事務局「子どものまち・いえワークショップ提案コンペ」係
〒108-8414 東京都港区芝5丁目26番20号

TEL 03-3456-2019 E-mail mishima@aij.or.jp

<http://www.aij.or.jp/jpn/symposium/2018/kodomocompe2018.zip>

【作品展示】

以下の期間において、全応募作品を展示する。

《期 間》

2018年6月9日(土)～16日(土)

《場 所》

建築博物館ギャラリー(東京都港区芝5丁目26番20号)

【企画発表会・公開審査会】

当日はポスターセッション形式で公開審査会を実施する。

※ポスターセッションの際には必要に応じて、模型等の説明資料を持参可能とする。

《日 時》

2018年6月9日(土) 13:00～17:00

《場 所》

建築会館ホール(東京都港区芝5丁目26番20号)

《審査委員》

- ・審査委員長: 山梨知彦(建築家、日建設計常務執行役員)
日本を代表する組織設計事務所、神保町シアタービル・乃村工藝社本社ビル・木材会館・ホキ美術館・ソニーシティ大崎など、注目を集める作品の発表を続ける建築家。
- ・植田実(編集者、建築評論家)
「都市住宅」「GA HOUSES」「住まいの図書館出版局」編集長などを歴任し住まいとまちに対峙しつづけ、「住宅課題賞」審査員長をはじめ学生に熱い眼差しを向ける編集者。
- ・中津秀之(関東学院大学工学部建築学科 准教授)
安全で創造的な子どもの遊び空間をはじめ、設計実務・展示・ワークショップなどを通じて、生活環境・都市環境に提言を続けるランドスケープ・アーキテクト。
- ・角館政英(照明家、ぼんぼり光環境計画代表)
「ふじようちえん」をはじめとした数多くの幼児施設のプロジェクトに関わり、全国各地で住民の地域活動に繋がるワークショップにも経験豊かな「あかり博士」。
- ・遠藤幹子(建築家、マザー・アーキテクチャ、office mikiko)
オランダでの留学・活動を経て、展覧会・ワークショップ・テレビ番組のスタジオセットなどでも成果を残し、子どもと建築の関わりに実践を重ねている建築家。

【懇親会】

審査委員や子ども教育事業部会委員も参加する予定です。

《日 時》

2018年6月9日(土) 17:30～19:00

《場 所》

建築会館イベント広場(東京都港区芝5丁目26番20号)

《参加費》

当日500円/1人お支払いいただきます。左面《応募方法》③の団体メンバー情報と共に、懇親会への出欠をご連絡ください。

【過去の最優秀賞作品の紹介】

子ども教育支援建築会議のfacebookを通じて、事業やイベント等、さまざまな内容を発信しています。

昨年実施されたコンペの様子も公開しています。

<https://www.facebook.com/rakurakukenchiku>

~~~~~

## 【参 考】

- 1) 日本建築学会子ども教育支援建築会議ホームページ  
「楽々建築・楽々都市」<http://news-sv.aij.or.jp/kodomo/>
- 2) 文献『楽々建築・楽々都市「すまい・まち・地球」自分との関係を見つけるワークショップ』日本建築学会編/技報堂出版

